

『岩倉峡の疎通量のことについていつ迄嘘をつき続けるのか』

’05.8.1

自然愛・環境問題研究所
総括研究員 浅野 隆彦

上野北西部の浸水被害軽減の為に、わざわざ川上ダムをつくる必要はないし、代替施設も無用である。「川上ダムの調査検討（とりまとめ）」＝平成 17 年 7 月 21 日版＝内の氾濫シュミレーションは全て根底からマチガイなのだ。

◎その訳 1. 岩倉観測所地点にて昭和 48 年から 22 年分の実際流量観測値をベースに、河川管理者自身が不等流計算を行ない、平成 5 年《H5-1’ 10.5m 水位（計画高水位にあたる）3,630.61 m³/s、H5-2’ 8.81m 水位 2,700 m³/s、H5-3’ 6.75m 水位 1,800 m³/s の流量となることを確認している。

〔参考資料 A-1 「観測流量表」参照のこと〕

私は全ての観測流量表から水位流量実測値を岩倉観測所地点横断面測量図にプロットし、上記 H-Q 曲線の適合度を検証してみた。プロットが重なるところを除いているが、明らかに適合している。〔参考資料 A-2 「水位流量曲線図」〕

更に平成 6 年度以降の河道改修で横断面が拡大し、結果として同水位に於て流量が増加している筈である。

〔参考資料 B-1、B-2 「横断面図」〕

◎その訳 2. 昨年 11 月 10 日、第 8 回ダム WG 会議にて「各ダムに関する既往最大流量について」とする説明資料が提示された。〔参考資料 C 「島ヶ原上流域の降雨及び流出量」〕

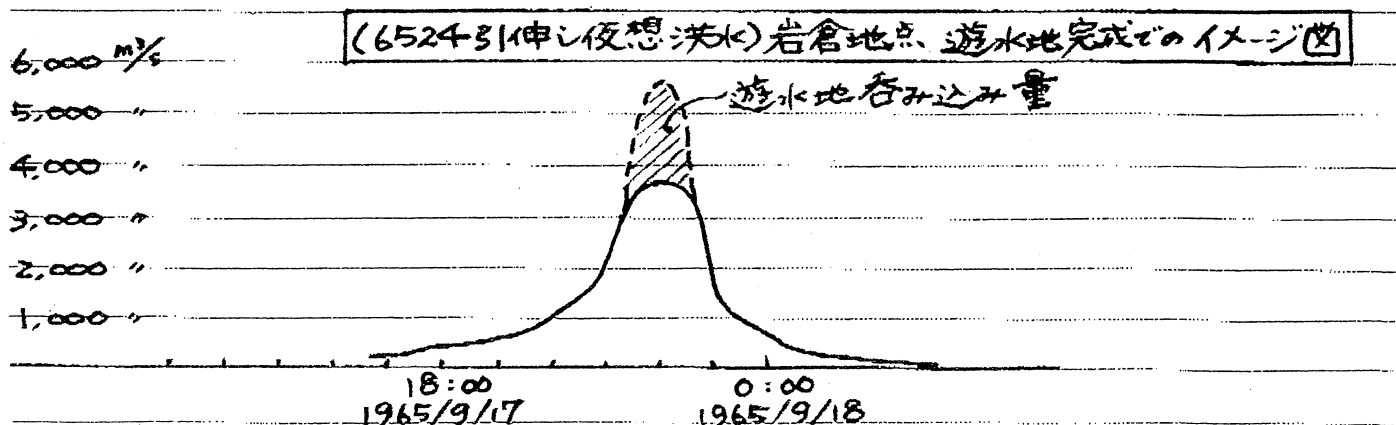
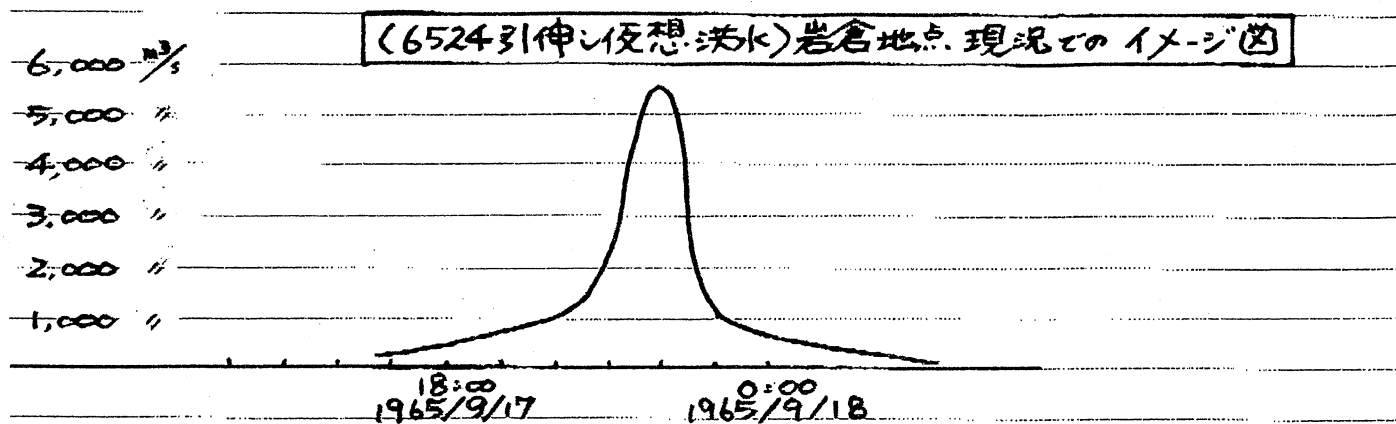
この資料は、気象の自然科学を無視した「異常引伸ばし仮想洪水」のトリック数値ではあるが、計らずも真の岩倉峡疎通量（現況）に近い流出計算値が表出している。

島ヶ原地点ピーク流量 4,149 m³/s（到達量）がそれである。岩倉観測所地点での島ヶ原地点迄の残流域は 4.39%あるので、単純にその割合を差し引くと、《4,149 - (4,149 × 0.0439) ≒ 3,967 (m³/s)》。すなわち岩倉観測所地点では 3,967 m³/s の疎通量が認められるということである。この時の岩倉観測所地点へ壁立てで、漏れなく押し寄せる流出計算値としてのピーク流量は《5,887 - (5,887 × 0.0439) ≒ 5,629 (m³/s)》。

◎その訳 3. 以上の疎通量に上野遊水地の働きを合算してみると、(6524 引伸ばし仮想洪水) に於ても氾濫が起らないことが明らかである。総延長 4km、E.L136.6mH の越流堤を備えた上野遊水地（湛水量 900 万 m³/s）完成が条件である。

3 支川各々の遊水地直前のハイドログラフは不明として、岩倉観測所地点計画高水位

E.L136.9m より平均して 30cm 低い越流堤にピーク時の洪水波はすぐさま吸い込まれ、遊水地がない現況でのピーク流量で表現すれば、以下のようなハイドログラフは大きく変容する。上図から下図となる。



上記のハイドログラフイメージを数値として示すと以下のようになる。

$$\begin{aligned} \textcircled{1} & \left\{ \begin{array}{l} \langle 5,629 - 3,630 = 1,999 \text{ (m}^3/\text{s)} \cdot \text{疎通量を } 3,630 \text{ m}^3/\text{s} \text{ とした場合の逆流量} \rangle \\ \langle 9,000,000 \div 1,999 \div 4,502 \text{ (s)} \cdot \text{逆流量を湛水総量まで呑み込める時間} \rangle \end{array} \right. \\ \textcircled{2} & \left\{ \begin{array}{l} \langle 5,629 - 3,967 = 1,662 \text{ (m}^3/\text{s)} \cdot \text{疎通量を } 3,967 \text{ m}^3/\text{s} \text{ とした場合の逆流量} \rangle \\ \langle 9,000,000 \div 1,662 \div 5,415 \text{ (s)} \cdot \text{逆流量を湛水総量まで呑み込める時間} \rangle \end{array} \right. \end{aligned}$$

①及び②で、3,600 (s) = 1 時間を上回る呑み込み時間があれば、疎通量を上回る流量が確実に遊水地の腹に収まる。そして、完全に氾濫なく洪水は終るのである。

引伸ばし仮想洪水として最大の (6524 引伸ばし降雨) での検討を行ったが、全くもってこのような降雨は考えられない。しかし、それであっても、真の岩倉峡疎通量+ピークカット特化遊水地働き量で氾濫とはならないのである。

平成 5 年の不等流計算書と平成 16 年 11 月 10 日付引伸ばし降雨 10 洪水での流出計算書を説明資料として提出するよう求める。

◎その訳 4. 「岩倉 (57.4K) の地点の水位と流量の関係について」=平成 16 年 12 月 20 日版=に記された水位流量曲線は 2 つ共、実際の流量観測値に適合しない曲線である。〔参考資料 D-1 「岩倉 (57.4km) 地点水位流量曲線図」〕

全ての流量観測値を網羅した〔参考資料 A-2 「水位流量曲線図」〕に 2 つの曲線を落としてみるが、2 つ共低水位観測群から外れていくのが歴然としている。不自然である。〔参考資料 D-2〕

「淀川水系 5 ダムについての方針に対する各委員からの質問」=平成 17 年 7 月 25 日版=中に今本副委員長が H-Q 曲線について疑義を表明しておられるが、これについては、昨年 6 月から 3 転 4 転説明が変わっているところでもあり、徹底的な究明が必要であり、恣意的に岩倉峡疎通量を小さく見せているとする疑惑が強まっている。〔参考資料 D-3〕

〔参考資料 A-1〕 観 測 流 量 表

観測所番号
60453

平成 5 年 (1993)

水 系		淀 川		河 川		木 津 川		観 測 所		岩 倉		
年 間 番 号	月 日 時	水位(基準) (m)	流 量 (m ³ /sec)	流速測 定方法	流 速 測線数	水面巾 (m)	断面積 (m ²)	水面勾配 1/	平均流速 (m/sec)	$\sqrt{Q}$		
1'	H.5 不 等 流	10.50	3630.61			.	.		.	60.25		
2'	. " .	8.81	2700.00			.	.		.	51.96		
3'	. " .	6.75	1800.00			.	.		.	42.43		
17'	H.1 8. 2.10	3.40	608.76	浮子	4	85.45	234.14	1/357	2.60	24.67		
18'	8. 2.11	3.67	667.64	"	4	88.31	256.81	1/417	2.60	25.84		
19'	8. 2.13	3.74	731.61	"	4	90.88	263.97	1/357	2.77	27.05		
20'	8. 2.14	3.53	637.14	"	4	87.36	246.28	1/313	2.59	25.24		
24'	8.27.11	3.22	563.02	"	4	84.57	216.29	1/625	2.60	23.73		
25'	8.27.12	2.98	517.69	"	4	83.46	196.12	1/625	2.64	22.75		
26'	H.2 9.20. 5	4.82	938.11	"	5	115.55	378.70	1/556	2.48	30.63		
33'	11.30.23	3.89	711.19	"	5	100.49	279.53	1/500	2.54	26.67		
23'	H.3 8.31. 3	3.84	660.27	"	4	98.88	271.17	1/125	2.43	25.70		
24'	8.31. 6	3.25	541.82	"	4	85.78	217.20	1/166	2.49	23.28		
25'	8.31. 7	2.58	441.39	"	4	82.10	161.33	1/125	2.74	21.01		
26'	8.31. 8	2.17	344.86	"	4	79.26	127.82	1/166	2.70	18.57		
27'	8.31.10	1.73	246.74	"	3	68.62	97.27	1/556	2.54	15.71		
28'	8.31.11	1.46	191.36	"	3	52.67	79.39	1/625	2.41	13.83		
13	H.5 7. 5. 7	4.23	856.27	"	4	114.42	311.61	1/1250	2.75	29.26		
14	7. 5. 8	4.31	796.43	"	4	114.83	317.67	1/1250	2.51	28.22		
15	7. 5.10	3.67	635.42	"	4	90.55	251.40	1/1250	2.53	25.21		
16	7. 5.11	3.07	490.62	"	4	83.95	199.25	1/1250	2.46	22.15		
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			
	.	.	.			.	.		.			

〔参考資料 A-2〕

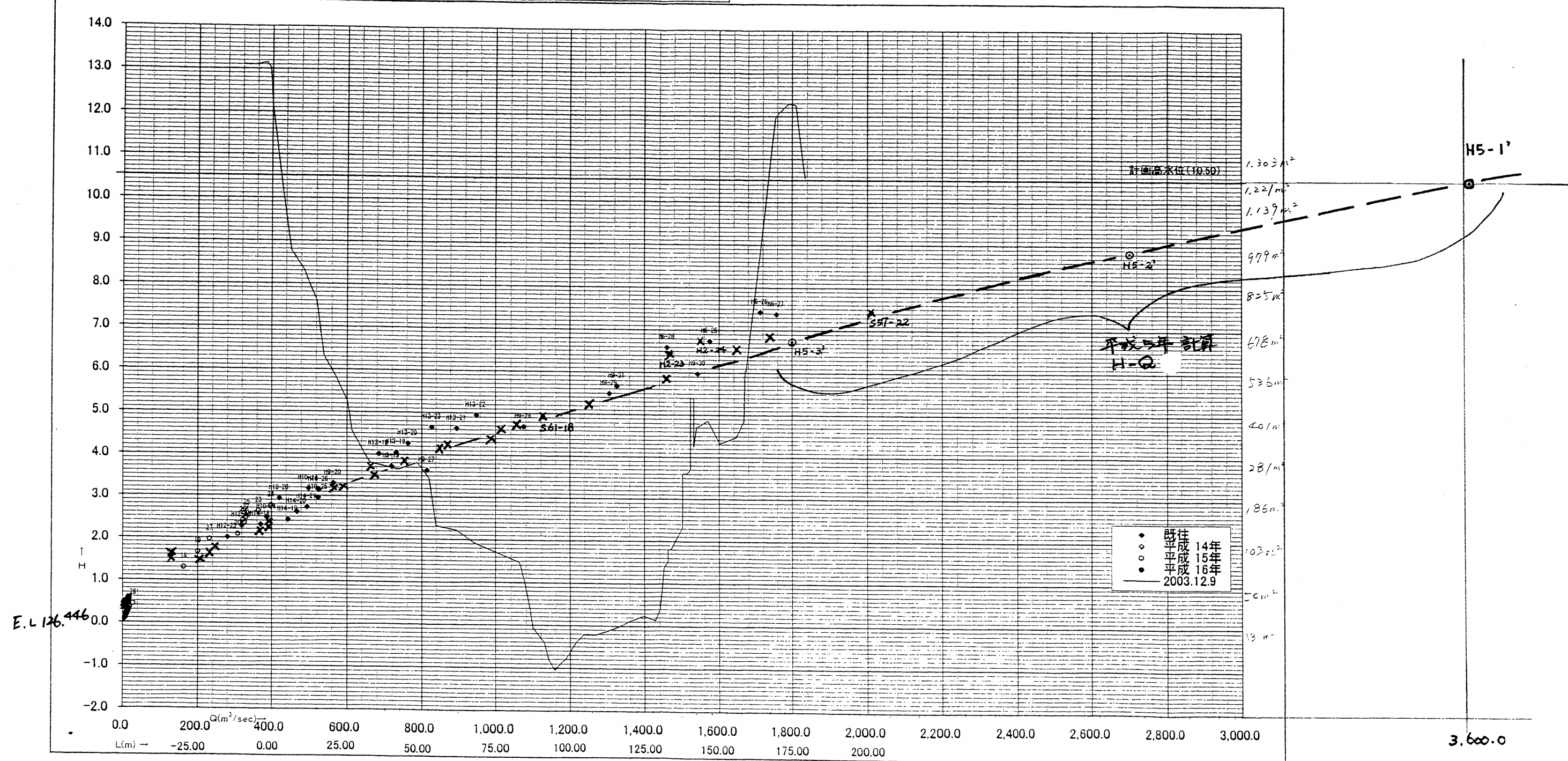
水位流量曲線図

種別	観測所記号
2	136216047306

水系名	淀川	河川名	木津川	観測所名	岩倉	読み	いわくら
-----	----	-----	-----	------	----	----	------

(全水位)

平成 15 年 (2003)



〔参考資料 B-1〕_{H5}

横 断 面 図

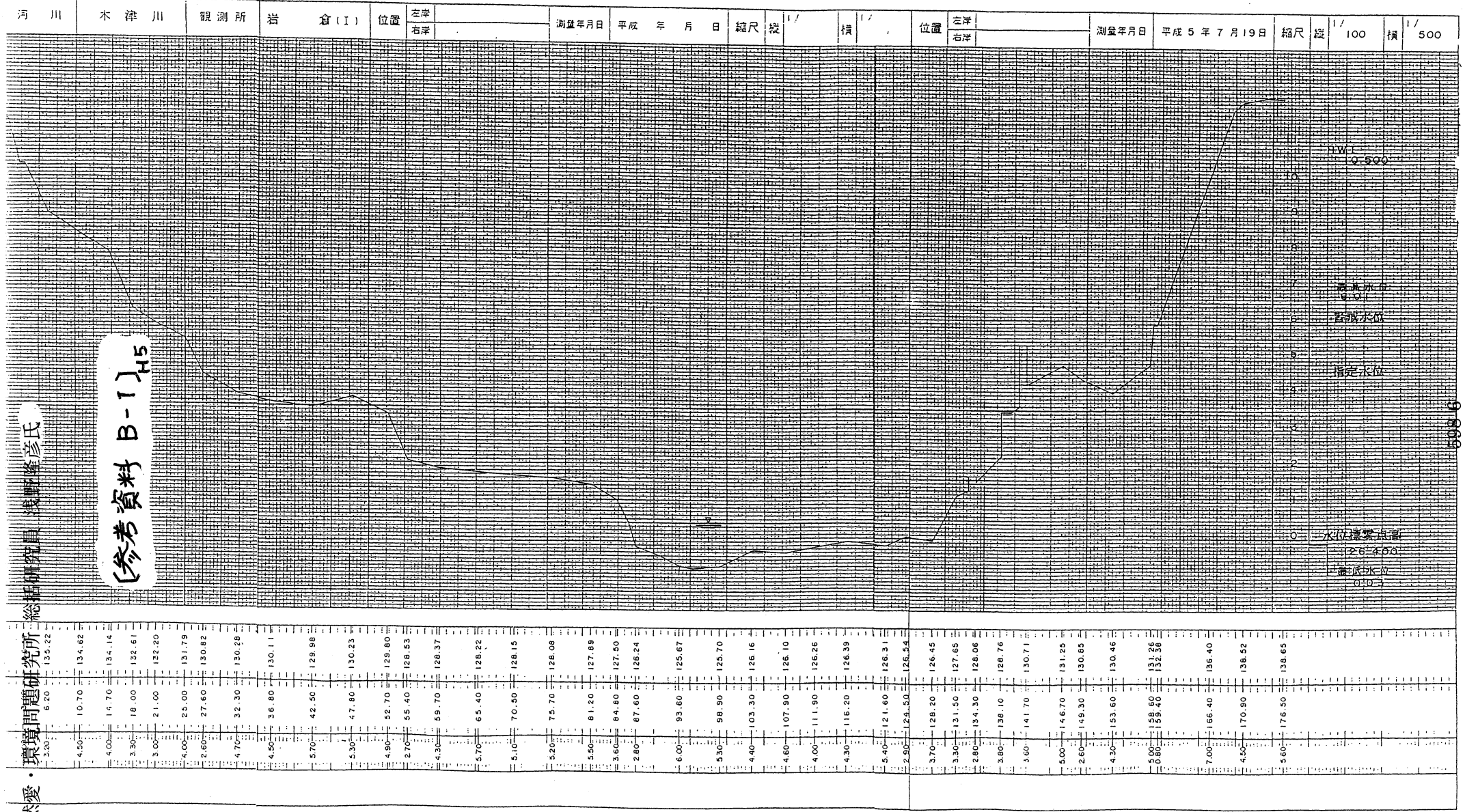
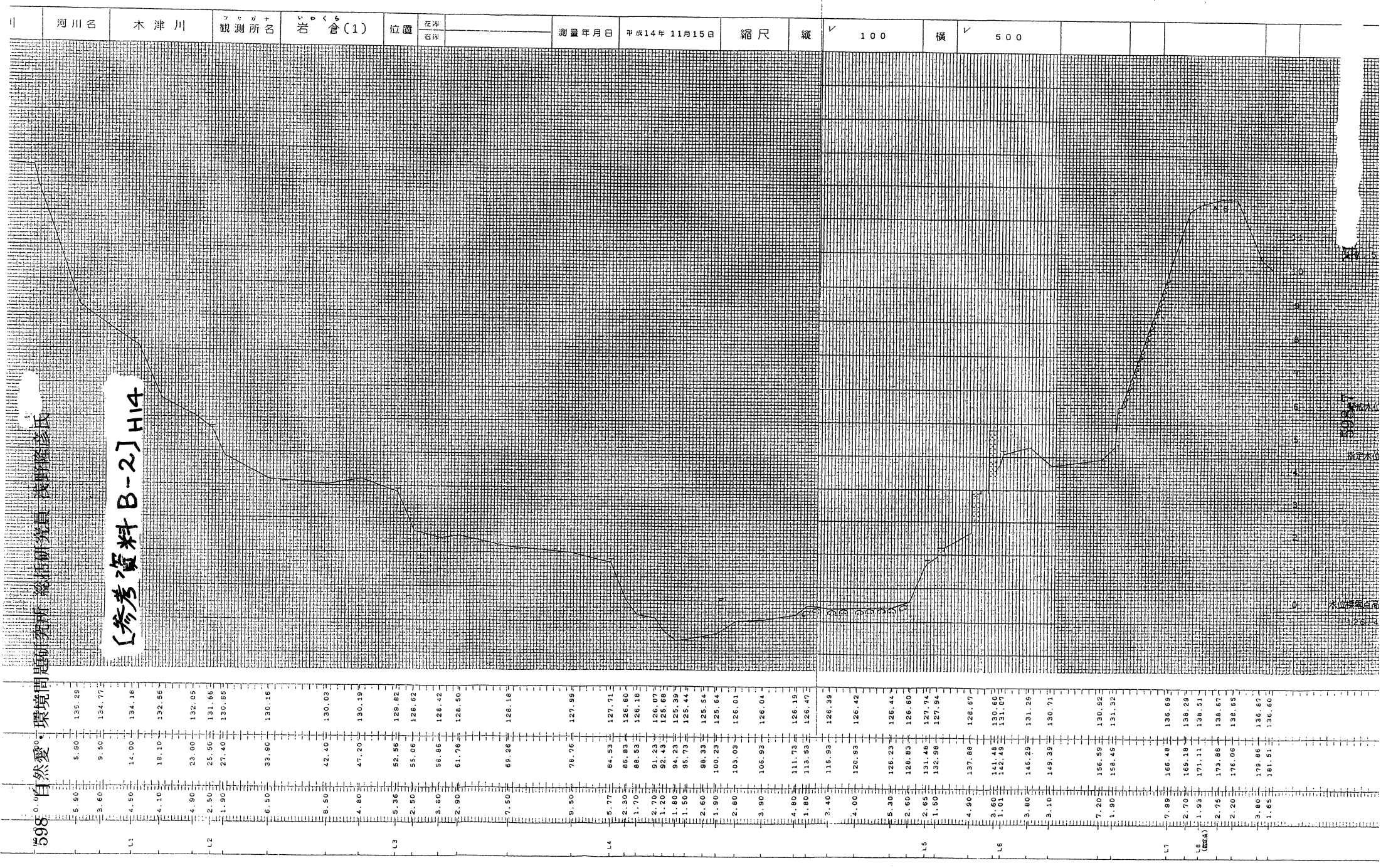


CHART NO. S-914 (水質様式 測図-14)

CHART NO. S-914 (水質様式 測図-14)

横断面図



【参考資料 C】

引き伸ばし後の洪水に該当するのは川上ダム関連だけである
島ヶ原上流域の降雨及び流出量

洪水名	略称	洪水発生月日	実績洪水			引き伸ばし後の洪水			
			2日間雨量(mm) (島ヶ原上流域)	島ヶ原地点 ピーク流量(m ³ /s) (流出計算値・現況)	島ヶ原地点 ピーク流量(m ³ /s) (流出計算値・現況壁立)	降雨引伸し率	引き伸ばし後の2 日雨量(mm)(島ヶ 原上流域)	島ヶ原地点ピーク 流量(m ³ /s)(流出 計算値・現況)	島ヶ原地点ピーク 流量(m ³ /s)(流出 計算値・現況壁 立)
昭和28年8月豪雨	531降雨	8月14～16日	192	2,036	2,643	1.66	319	4,040	5,177
昭和28年台風13号	5313降雨	9月24～25日	299	3,054	3,730	1.07	319	3,326	4,086
昭和34年台風15号	5915降雨	9月25～26日	312	2,521	3,006	1.02	319	2,625	3,071
昭和36年10月豪雨	1028降雨	10月26～28日	280	2,549	3,111	1.14	319	3,145	3,663
昭和37年台風14号	6214降雨	8月24～26日	220	1,946	2,735	1.45	319	3,768	5,305
昭和40年台風24号	6524降雨	9月16～17日	205	2,162	2,983	1.56	319	4,149	5,887
昭和47年台風20号	7220降雨	9月13～17日	198	2,047	2,645	1.61	319	3,945	5,373
昭和57年台風10号	8210降雨	7月31日～8月3日	319	2,143	2,443	1.00	319	2,143	2,443
平成2年19号台風	9019降雨	9月14～20日	204	2,116	2,800	1.56	319	3,886	4,959
平成6年26号台風	9426降雨	9月26～29日	206	2,003	2,689	1.55	319	3,769	4,807

※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値)の上位10洪水を抽出した。

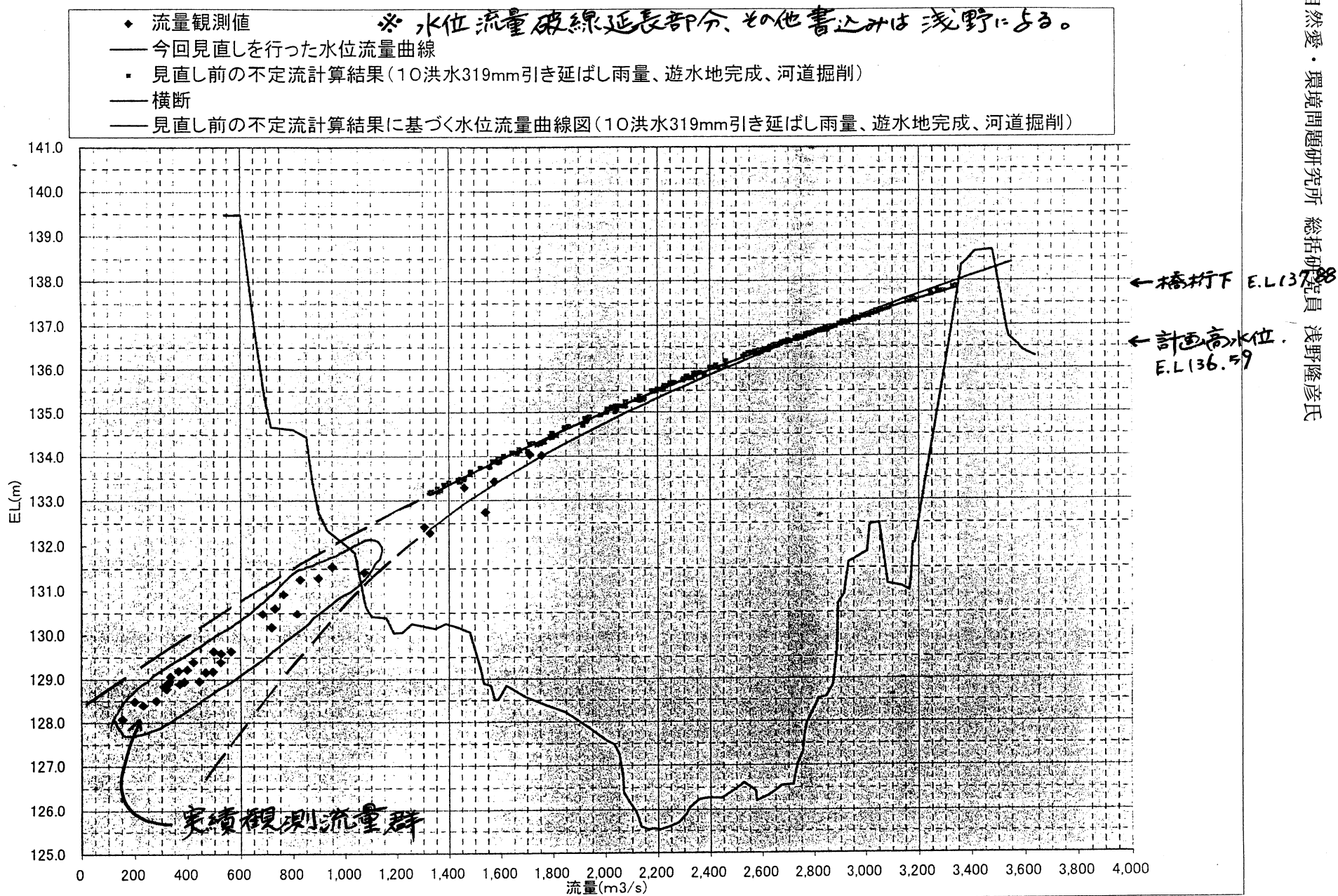
※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値・現況)は、現在の河道で、上流の氾濫(県管理区間、直轄区間、上野地区遊水地未完成での氾濫)を考慮に入れた島ヶ原地点での到達量である。

※島ヶ原地点ピーク流量(流出計算値・現況壁立)は、現在の河道で、上流の氾濫が無い場合(県管理区間壁立て、直轄区間壁立て遊水地無し)の島ヶ原地点での到達量である。

※洪水発生月日は、枚方上流域での降雨開始から終了までを示す。

〔参考資料 D-1〕

岩倉(57.4km)地点水位流量曲線図



[参考資料 D-2]

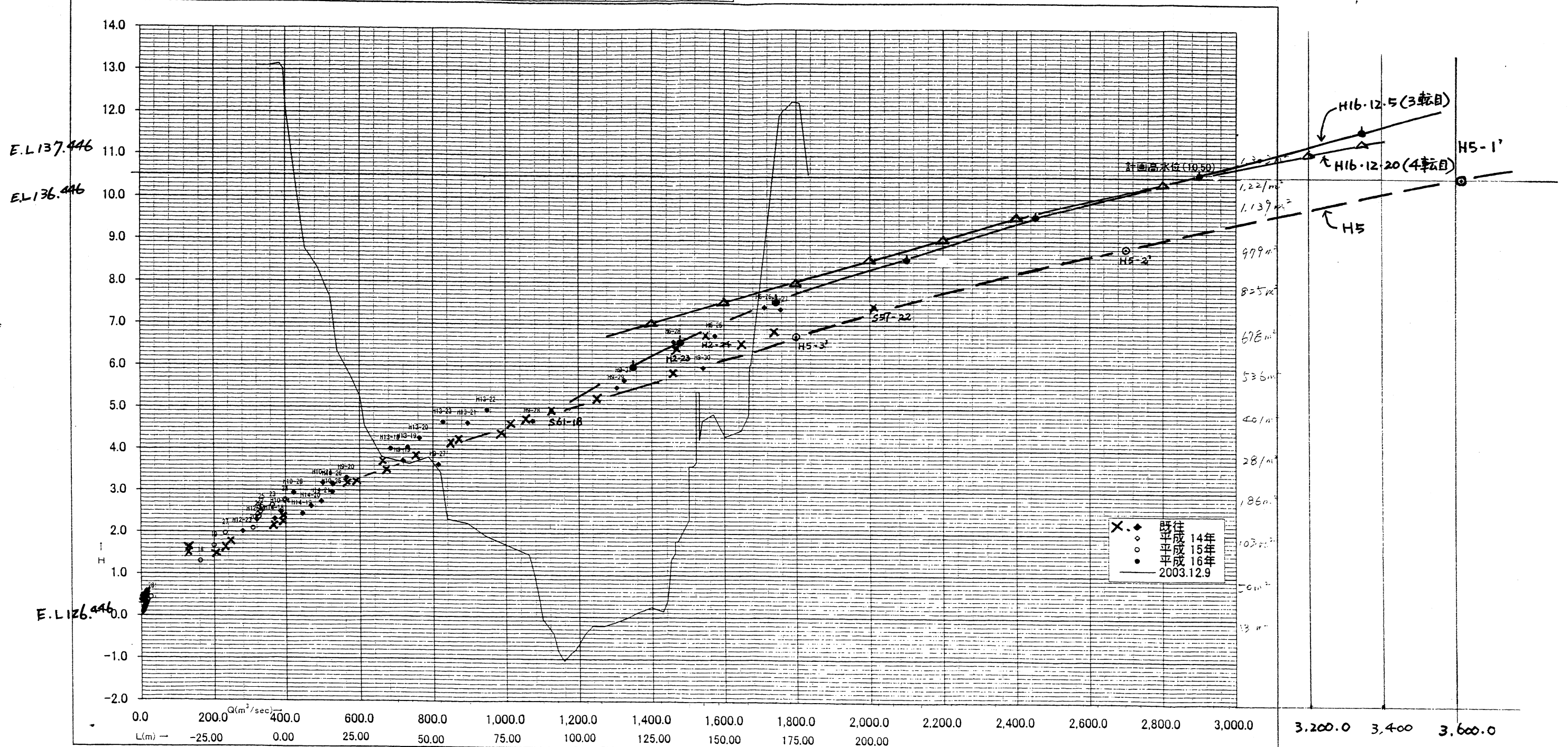
水位流量曲線図

種別	観測所記号
2	136216047306

水系名	淀川	河川名	木津川	観測所名	岩倉	読み	いわくら
-----	----	-----	-----	------	----	----	------

(全水位)

平成 15 年 2003



※ H16.12.5 及び H16.12.20 版の2つの曲線共、観測実績値とひどく乖離し不自然であり、H5の曲線が正解であることが一目でわかる。(浅野)

※ 河道掘削計画で平均河床が約2.5m下るので、疎通量増大は現況高水位でもって 136 m³/s 以上となる。(浅野試算)

〔参考資料 D-3〕

淀川水系流域委員会副委員長 今本氏の疑義

⑨

としているが、委員会では岩倉峡流入部の最も狭い部分を小開削すれば、洪水時の岩倉峡上流域の水位が若干なりとも下げられると考えられるので検討すべきであると提案し、木津川上流河川事務所で調査・検討を行ってきたと聞いている。その結果については未だ委員会に報告されていないが、このような重要な事柄の調査・検討の報告が未だに行なわれないのはなぜか？（川上聡委員）

P9

・(I) 治水において、岩倉地点におけるH～Qの関係が触れられていませんが、どのようにして推定したのですか。岩倉地点におけるH～Q実績に推定曲線を当てはめる方法を用いたのであれば、推定曲線

10

の式と適合度を示してください。また、島ヶ原地点のH～Q曲線を出発点として水面形を追跡して岩倉地点におけるH～Q曲線を推定したのであれば、島ヶ原地点のH～Q曲線も推定に過ぎないうえに、水面形の追跡過程に水理学的にみて重大な誤りを含んでいる可能性があります。これらの疑問についての説明をお願いします。（今本博健委員）

P9

P10

・河川管理者が地元で約束した治水安全度（既往最大規模の洪水：既往実績降雨の中の最大雨量が、既往の様々な降雨分布で今降った場合に想定される最大洪水量）をダムなしで実現するための代替案を、次の2案とする。

B案＝〔遊水地＋上流の河道掘削＋新遊水地＋岩倉峡最小限掘削＋下流の河道掘削〕

C案＝〔遊水地＋上流の河道掘削＋岩倉峡最小限掘削（親遊水地なし）＋下流の河道掘削〕

（注1） 上流とは木津川上流、下流とは木津川下流をいう。

（注2） C案の岩倉峡最小限掘削は、新遊水地がない分だけB案に比べて掘削規模は大きくなる。

①B案、C案の場合、岩倉峡の掘削により、それぞれ最小限現状より流下能力をどれだけ高めねばならないか。

②同じくB案、C案の場合、木津川下流の水位は、それぞれ河道の狭いところで何cm、広いところで何cm上昇するか。

③A案＝〔ダム＋遊水地＋上流の河道掘削〕とダム代替案B案、C案のそれぞれの総事業費はいくらか。なお、ダム事業費はこれからダム事業完成までに要する事業費とする。（参考までに、ダム事業でこれまでに使った事業費はいくらか。）（千代延明憲委員）

利水
3. (2)

P10

②

・水需要の精査確認の観点から、川上ダムから撤退見込みの利水者は水利転用を考えています。これら利水者の考えに対する河川管理者の水利転用の考えをまとめて具体的に聞かせてください。

（荻野芳彦委員）

・川上ダムの予定されている利水容量と水利権の対象となる基準点の基準渇水流量はいくらですか。

（荻野芳彦委員）

・岩倉狭での渇水流量はいくらですか。川上ダムに予定されている三重県の上水道を岩倉狭の上流地点で取水することは可能か。もし、渇水流量に不足するのであれば、不足分を青蓮寺ダム等で水利調整を行うことが出来ると思われる。（荻野芳彦委員）